
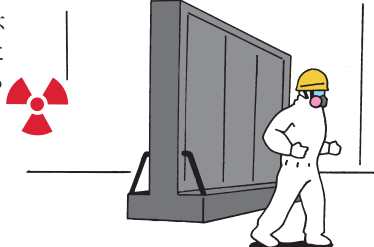
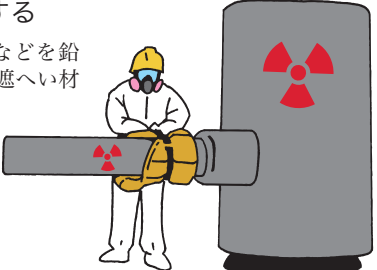
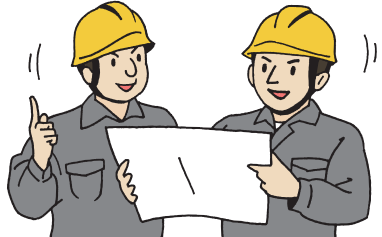


被ばく防護の原則

(1) 外部被ばくの低減


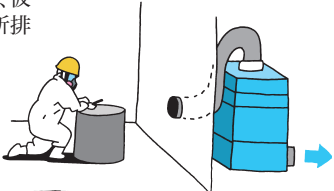

外部被ばくを少なくするためには、次の被ばく防護の4原則を知っておくことが大切です。

<p>原則1 放射線源を除去する</p> <p>線源になっている物を移動したり、配管内部の線源を洗い流す(フラッシング)ことです。</p> 	<p>原則2 放射線源から距離をとる</p> <p>線源から少しでも離れ、不必要に近づかないようにすることです(待機場所も知っておくこと)。</p> 
<p>原則3 遮へいをする</p> <p>線源となる機器、配管などを鉛毛マットや鉛板などの遮へい材でおおうことです。</p> 	<p>原則4 作業時間を短くする</p> <p>作業前の打ち合わせや工具の点検など事前の準備を十分に、作業をスムーズに進めることです。</p> 

(2) 内部被ばくの防止

内部被ばくを防止するためには、決められた防護装備を着用し、体内に放射性物質を取り込まないようにすることが大切です。

また、空気中に放射性物質を舞い上がらせない対策や、汚染を封じ込め(抑え)、拡散(拡大)させない対策が必要です。

<p>原則1 保護具等を装着する</p> <p>決められた装備を着用し、呼吸用保護具は漏れがないよう正しく装着する。</p> 	<p>原則2 器材を活用する</p> <p>粉塵が舞い上がる作業では、仮設ハウスやフィルター付局所排風機を活用する。</p> 
<p>原則3 退域する</p> <p>けがをしたら迅速に非汚染区域へ退域する。</p> 	<p>原則4 汚染区域を明確にする</p> <p>汚染区域を明確に区画し、出入りの管理をするとともに、汚染区域からの物品の持ち出しは、シート等で養生して、汚染の拡散(拡大)を防ぐ。</p> 